

友の会だより

No.66

2022.2

茨城県陶芸美術館友の会

展覧会
案内

北澤美術館名品展 エミール・ガレとドーム

会期：2022年2月5日(土)～5月8日(日)

主催：茨城県陶芸美術館 出品協力：北澤美術館

後援：笠間市、NHK水戸放送局、朝日新聞水戸総局、茨城新聞社、産経新聞社水戸支局、
東京新聞水戸支局、読売新聞水戸支局

休館日：毎週月曜日〔ただし、3月21日(月・祝)、5月2日(月)は開館〕3月22日(火)

北澤美術館は、19世紀末のアール・ヌーヴォーを中心にフランス・ガラス工芸の名作を所蔵する美術館として国内外に知られています。本展では、その中からエミール・ガレとドーム兄弟のガラス作品を、初期から晩年まで約100点にわたって紹介し、魅力に迫ります。



▲エミール・ガレ
脚付杯「けし」
(年記1900年)
1900年パリ万国博覧会出品作
北澤美術館蔵



▲エミール・ガレ
水仙文花瓶
(1898～1900年)
北澤美術館蔵



▲ドーム兄弟 シリーズ花畠文《プレリアル》
(1900年) 北澤美術館蔵
撮影：尾形隆夫



▲ドーム兄弟
クロッカス
(1900～1912年)
北澤美術館蔵

● 展覧会関連催事のご案内

*詳細は、チラシや下記ホームページ等をご覧ください。お問い合わせください。

● ガラリートーク (予約不要 ただし先着15名)

担当学芸員が展覧会をご案内いたします。

日時：3月5日(土)、4月9日(土) 各日とも13時30分から 会場：当館地下1階 企画展示室

参加費：無料 (観覧料にてご聴講いただけます。)

● つくば美術館土曜講座「北澤美術館名品展 エミール・ガレとドーム」

講師：岩井基生 (茨城県陶芸美術館主任学芸員)

日時：2月12日(土)13時30分から15時00分 会場：茨城県つくば美術館 2階アルスホール

TEL：029-856-3711 ※詳しくは茨城県つくば美術館へお問い合わせください。

*新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今後の状況により予告なくイベント等を中止・延期する場合がございます。変更の場合には、下記ホームページにてお知らせいたします。

茨城県陶芸美術館ホームページ <https://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

自然美と造形美を追究して

根本峻吾さん

影絵を思わせるような作品。独自の世界観をもつ根本峻吾さん(笠間市在住)の工房を伺いました。
(11月24日)



出身はどちらですか？

常陸太田市の出身です。

陶芸の道に進まれた経緯についてお聞かせください。

父が陶芸家で、家には窯があり、ろくろもあり、小さい頃から陶芸が身近にありました。高校生の時にアマチュア陶芸の公募展に応募し大賞の評価を頂き、このことがきっかけとなり陶芸を始めました。

さらにより良い作品をつくりたいという思いから、茨城県窯業指導所(現・笠間陶芸大学校)に進学しました。指導所の成形1・2科と釉薬科の全課程を修了。指導所ではろくろの技術や釉薬の知識を学びました。

作品づくりについてお聞かせください。

ある寒い冬の朝、家の外にあった陶器に霜が降りていました。霜のついた陶器がとても美しく見え、これを再現できれば、今まで見たこともない作品をつくることができるかもしれないと思いました。そして釉薬の配合や釉薬の掛け方、窯の焼成などを研究し、白色の細かい釉の粒に覆われ霜が降ったような技法を開発し「霜鱗」と名付けました。陶器の加飾にこだわったわけですが、それ以上に陶器の形にもこだわりました。色のついた作品をつくっていたときに、陶芸家の先輩から「色に頼らず、まずシルエットを考えた方が良い。良い作品は黒く塗りつぶされても良く見える。」とアドバイスされ、それ以来、形も大事にするようになりました。

「霜鱗」による質感の良さや、シルエットが美しく見える形の良さ、どちらをも追究しながら、いつ見ても新しさが感じてもらえる作品づくりをしています。

今後、どんなことをやりたいですか？

釉薬を調整し、霜鱗の粒の大きさがコントロールできるようになりました。霜鱗の粒度の違いから新たな文様をつけた作品づくりが展開していければと考えています。そして新たな展開として工芸技術とオブジェの概念を織り交ぜた新しいものを追究していければと考えています。

プロフィール

- 1986 茨城県常陸太田市生まれ
- 2007 茨城県窯業指導所(現・茨城県立笠間陶芸大学校)成形1・2科釉薬科修了
- 2008 茨城県美術展覧会奨励賞受賞
- 2009 茨城県常陸太田市に独立
- 2011 茨城県美術展覧会優賞受賞
- 2014 和食と現代陶芸(茨城県陶芸美術館)出品
- 2015 第4回そば猪口アート展特別賞受賞
- 2016 現代の茶陶(茨城県陶芸美術館)出品
- 2017 テーブルウェアフェスティバル2018うつわに息づく
用の美～笠間焼・益子焼～(東京ドーム)出品
- 2018 欲しいものが見つかるうつわ展(茨城県陶芸美術館)出品
茨城県笠間市に移窯
A la Table - 益子と笠間のうつわの饗宴 - (益子陶芸美術館)出品
- 2021 笠間陶芸大賞展 入選



「積霜鱗器」



「霜鱗鉢 霜鱗ぐい呑」

対談を終えて

工房の窓際にはかわいらしい小さなサボテンが並んでいて、癒やされる空間での対談になりました。そのサボテンのためにつくられたかわいい鉢も全て根本峻吾さんの作品だそうです。つくった作品をSNSで発信し、ネットで海外からの注文にも応じているとのことでした。

「新しいもの」を追究する現代の若い陶芸家を感じました。

テーマ展「桜井貞子と紙布」

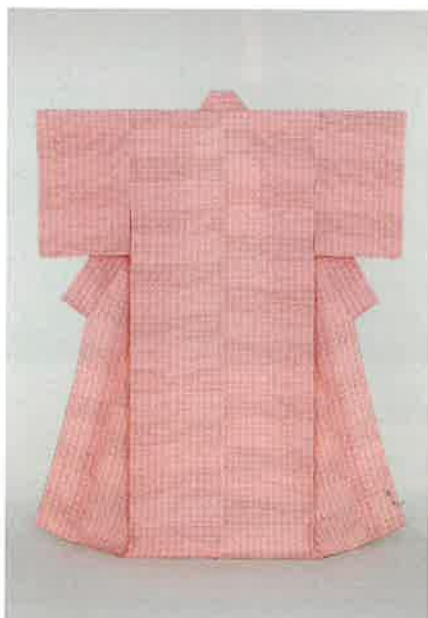
令和4年1月19日(水)～令和4年5月15日(日)

紙布は木綿の代わりに和紙による糸（紙糸）を織り込むことで作られる織物で、宮城県の白石では、城主の片倉家が産業として奨励し、発展を見せました。

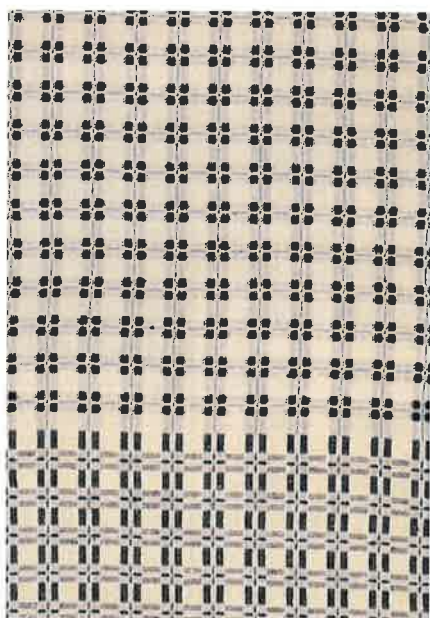
水戸在住の紙布作家の桜井貞子（1929-）は、1977年に白石紙布に出会い、試行錯誤の末、その技術の再現に成功しました。桜井氏の紙布は紙を原料としますが、一流の職人が漉いたきめ細かなもの以外は使えないことから、紙布として完成するまで長く根気のいる作業が必要となります。織の素材となる紙糸は茨城県内の西ノ内和紙や、新潟、山形で生産された和紙等を厳選して用いています。それらを裁断したあと、平たい石の上で切った和紙を揉むことで紙糸は生み出されますが、その工程全てが桜井氏一人の手で行われています。

こうして生み出された紙布は、紙の特性として通気性がある上に、軽くて手触りも良く、さらに繊維の結びつきによって丈夫なことから洗濯も可能で、着物のみならずシャツ等のさまざまな用途に仕立てられます。

本展では90歳を過ぎた現在も、紙布の可能性を追求し新たな挑戦を続けていく、桜井貞子氏の業績の一端を伝えます。



絹紙布風通緋紅梅織着物「満ちる春」1993年
公益財団法人日本伝承染織振興会蔵



諸紙布風通緋帯 2000年頃 作家蔵



絹紙布「枯茶」1983年
公益財団法人日本伝承染織振興会蔵

友の会からの お知らせ

会員の皆様に焼き物をプレゼント

笠間陶芸大学校のご協力をいただき、生徒さんの作品を会員の皆様にプレゼントいたします。来館時にお渡ししますので受付にお申し出ください。お渡しする準備が整いましたら3月中旬以降に茨城県陶芸美術館ホームページ（<https://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>）上の友の会コーナーでお知らせいたします。



良い品をそろえてご来店をお待ちしています

友の会特約店のご紹介

アトリエ・フラスカ	0296-72-9322
笠間工芸の丘	0296-70-1313
笠間みんげい	0296-72-9280
かつら陶芸	0296-72-6688
ギャラリー桜	0296-72-0803

- 1月2日(日)～3月3日(木)
(大貫博之陶)×(麻衣子雛)×(福野道隆陶)
- 3月5日(土)～3月21日(月) 尾崎高行 展
- 3月26日(土)～5月5日(木) 節句飾り展
- 6月11日(土)～6月26日(日) 福野道隆 展
- Monthly企画
1月 土面まつり
3月 外山亜基雄 展
5月 前田 保 展

ギャラリー爽鳳SOHO	0296-72-9121
ギャラリー舞台	0296-73-0700
笠間焼窯元共販センター	0296-72-5665
きらら館	0296-72-3109

- 2月8日(火)～2月20日(日) 川田達哉・敦子 二人展
- 2月22日(火)～3月6日(日) 松下昇二・知子 二人展
- 3月8日(火)～3月21日(月) 大畠穂 作陶展
- 3月23日(水)～4月3日(日) 吉田丈・樋口草苗 二人展
- 4月5日(火)～4月17日(日) 岩元鐘平 作陶展
- 4月19日(火)～4月24日(日) 内藤加奈子 作陶展
- 5月14日(土)～5月29日(日) 杉本遊炫・田中千裕 夫婦展
- 5月31日(火)～6月12日(日) 安藤喜代子 作陶展
- 6月14日(火)～6月26日(日) MMC(マシコメンズコレクション)・勝田恭司 グループ展

● 6月28日(火)～7月10日(日) 中村明美 作陶展	
向山窯	0296-72-0194
丹野陶房	0296-72-4028
陶芸館	0296-72-6650
ギャラリー陶正	0296-72-4007
東風舎	0296-72-5205
無限堂	0296-72-1695
やまさき陶苑	0296-72-6865
涼	0296-72-0712
ミュージアムショップ(館内)	0296-72-7105
レストラン「風の丘」(館内)	0296-72-0197

各店舗で買物をされる際、会員証を提示していただくと、陶器が10%割引となります。(一部除外品があります。)笠間工芸の丘は体験のみ対象です。レストラン「風の丘」は飲み物サービスとなります。

友の会からのお知らせ

会員募集

茨城県陶芸美術館友の会では、会員を随時募集しています。陶芸が好き、陶芸についてもっと知りたい、体験してみたい・・・そんなあなたの期待に応えます。

年会費 3,000円(夫婦会員は2人で5,000円)

- 特典1** 常設展が、何度でも無料観覧できます。
- 特典2** 企画展が年2回まで無料で観覧できます。
- 特典3** 会報の無料配付(年3回)を受けられます。
- 特典4** 特約店において、陶磁器等の割引が受けられます。
- 特典5** 友の会主催の各種事業に参加できます。

お問合せは茨城県陶芸美術館友の会事務局までお願いします。
茨城県陶芸美術館友の会事務局(茨城県陶芸美術館内)
電話 0296-70-0011 / FAX 0296-70-0012

編集後記

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、3回目のワクチン注射が始まっています。収束を願いながら感染の予防に努めていきたいと思えます。

友の会だより No.66

発行: 令和4年2月1日
編集・発行: 茨城県陶芸美術館友の会
〒309-1611 笠間市笠間2345
電話 0296-70-0011 FAX 0296-70-0012
編集委員: 小薬 和子 鈴木 充